

自由作文 お題「虫がいい」

佐藤は現在、大学一年生だ。入学するのとはほぼ同時に一人暮らしを始めた。最初は、家具を置いたり、近所の家にあいさつをしに行ったりしていそがしかったが、最近はおちついてきた。佐藤は、大学で田中という名の友達ができただが、田中の家は金持ちで、一度家にとまりにいったとき、高級家具がいっぱいあってすごくおどろいた。しかし、田中には一つ問題があった。それは、虫が良すぎるところだ。田中も一週間前から一人暮らしを始めたらしいのだが、昨日、田中が、

「おれ一人暮らしを始めたんだけど、自分の貯金あんまりねーから親から毎週おこづかいもらってたよ。これなら働かなくても、テレビ見放題だし、ゲームもし放題だよな。ハッハッハッ。」

と自まんしていた。佐藤が

「お前それは虫が良すぎるぞ。」

と言っても聞かない。本当に大丈夫だろうかと佐藤は心配になった。

※無断転載禁止

自由作文 お題「義務」

ひろしは現在小学六年生。洋介と仲が良い。ある日、塾が休みになったので洋介の家で遊ぶことにした。洋介の家は広いし、家で遊べる日が多い。だから、遊ぶときはだいたい洋介の家で遊ぶ。今日も、いつもどおり洋介の家でゲームをしていると、ふとあることが気になった。洋介の両親がいつもいない気がするのだ。仕事がいそがしいだけかなと思っただが、ひろしは気になったので聞いてみることにした。

「なあ洋介、お前の親ってふだん何をしてるんだ？」

「えっ、おれの親か？まあ簡単に言えばギャンブルだな。だからいつも家にいないんだよ。」

朝は店が開くのと同時に行って、夜は七時ぐらいに帰ってくるからな。おばあちゃんが  
すごく金持ちだからいろいろたすけてもらってるんだよ。この家だって、おばあちゃんが  
建てたんだ。」

ひろしは洋介のことが心配になった。働くのは義務なので、親にちゃんと働いてお金を  
かせげといいたくなくなった。

※無断転載禁止